

## 江戸時代初期の北野天満宮仕記録を用いた災害研究の可能性

北 利史\*・塚本 章宏\*・原澤 亮太\*・赤石 直美\*\*

## I. はじめに

過去の災害をたどる際、日記や日誌類は有効な史料の一つである。これまで、こういった史料をもとに災害史が編纂されてきた。

ところで、近年の歴史研究では個人の日記や記録をもとに、下級武士や農家といった人々の生活が捉えられている<sup>1)</sup>。同様に災害史研究においても、実体験に注目したよりミクロなスケールからのアプローチが求められよう。そこで、本研究は日記類に記録された体験者の目線による、より身近な事件や出来事としての災害記録に着目したい。

さて、このような立場による災害史研究の前段階として、本稿は日記類に記された災害を概観し、今後の活用方法を検討したい。

本稿で取り上げる日記は、北野天満宮の社人である宮仕衆中によって書かれた年預記録である。これらのうち、1636(寛永13)年～1707(宝永4)年間(旧暦)の記録は、『北野天満宮史料 宮仕記録』、『北野天満宮史料 宮仕記録 統一・二・三』としてまとめられている<sup>2)</sup>。年預記録は正保頃から始まるが、形を整えるのは貞享年間以降であるという<sup>3)</sup>。本稿は、正保年間以降、記録がまとめられている1707(宝永4)年までを取り上げたい。

北野天満宮は菅原道真を祀った神社の宗祀である。その始まりは、国を鎮め守る神として平安時代中期、多治比文子らが北野の右近馬場に菅原道真の御霊を祀ったことにあるとされる。江戸時代には、寺子屋の精神的中心として菅原道真の御分霊が祀られたという。現在、北野天満宮は「天神様」として親しまれ、学問の神様として信仰されている神社である。

## II. 北野天満宮の被災

まず、日記に記された北野天満宮における災害を取り上げたい。

貞享四年

(四月)三日

一、御神前石灯炉直し候者、能楽方迄参候<sub>而</sub>、右<sub>二</sub>直し申候石灯炉此中之雨<sub>三</sub>傾事可有御座候、若曲ミ候ハ、直シ可申と也、併曲ミ申右灯籠無之由、其分也、

(九月)

一、九日、雨大風、社中・社外大木折、

貞享五年

(七月)

一、十八日、晴、申ノ刻<sub>レ</sub>白雨より雷<sub>三</sub>て、神前南ノ鳥井ノ内へ落雷ル、又真盛町薬師院庭へ落ル、

元禄十二年

(八月)

一、十五日晴及晩大雨大風、社中ノ古木少々傾倒也、名月之御神供如例之、…(以下略)

元禄十三年

(十二月)

一、廿四日晴、昼過土手外甚兵衛へひらき家三軒焼失ス、同時三条通暫時出火之由、

以上の記録をみると、北野天満宮は落雷や大風による被害を受けたようである。幸い、江戸時代初期における火災の被害はなかった。

国宝の指定を受ける北野天満宮の現在の本殿は、1607(慶長12)年に豊臣秀頼によって造営されたもので、同時に作られた中門、東門、絵馬堂、神楽殿、校倉等も現

\* 立命館大学・院

\*\* 立命館大学・日本学術振興会特別研究員

存している。そして、当宮の社殿は、朝廷及び將軍家がその造営修繕に当たってきたという。しかし、その背景には被災と復旧の歴史があったようである。

現在、文化財として残る建築物の被災と復旧のプロセスを議論する際にも、こういった史料が有効と考えられる。

### III. 江戸時代初期における災害の記録

ここでは、北野天満宮周辺地域および京都周辺の災害記録をみていきたい。第1表は、1645（正保2）年～1707（宝永4）年の約60年間における災害記録をまとめたものである。記録件数は247件で、内容は大きく火災・地震・風水害関係に分類された。

#### 1 火災

記録のなかで最も多かった災害は火災で、50年間で149件あった。平均すると年間約3回、4ヶ月に1回の割合で、火災が発生していたことになる。

火災の記述内容をみていくと、「七ツ時分ただす村火事」、「寅刻堺町通押小路下ル町々出火」、「戌ノ下刻龍安寺火事」、「粽屋道喜出火」のように、具体的に火災の発生した場所が書き記されていた。さらに、「下立売通紙屋川ノ涯竹林寺ノ後口小家十三軒焼失」のような被災軒数や、「小屋老間焼失」といった被害の実態、「御影堂出火焼失三名焼死」という罹災者数が記されている場合もあった。

さて、この50年間で特に規模の大きかった火災は次の2件で、約300軒の家が焼失していた。

貞享四年

（七月）十二日

一、紫竹村家事出来寅刻、出在家三百軒余焼失、

元禄三年

（十二月）九日

一、夜子ノ下刻出水通新町上ル西かわ南ノ方三軒メヨリ出火シテ、東ハ鳥丸通北ハ長者町迄焼、家数三百余軒、翌十日ノ辰中刻ニ消、

一方、「須臾ニ止」や「須臾ニ鎮」、「少焼」といった、「ぼや」程度で済んだと推察される火災は、12件確認された。

#### 2 地震

この50年間での地震記録は14件であった。地震は、単に「卯刻地震少シ」あるいは「午刻地震」とだけ記録されていた。そのなかで、次の一件は興味深い。

元禄十四年

（五月）

一、廿一日曇天、夜ニ入大雨、明六地震、昼七ツ時又地震少、能仕宅へ能通・熊玉会合、

これは、余震があったことを示していると推察される。しかし、地震による被害の詳細な記録はなく、この日記から地震の規模を推察するのは難しいと考えられる。

#### 3 風水害関係

風水害（大風・洪水）に関する記録は12件、落雷が3件、大雪が1件であった。そのなかで、特徴的なものをみていきたい。

元禄三年

（八月）

一、十五日雨、夜中之雨故方々大洪水、川筋橋共大小共ニ破損、一条堀川辺大水、上橋在家及流漂前代未聞云々、

この時の洪水では、橋や家が流されたことがわかる。ところで、この前日の8月14日は、「十四日雨、…（略）…午刻ハ大雨、終日及夜不晴」となっていた。つまり、前日から雨が降り続いたことにより、洪水が発生した可能性があるだろう。

元禄八年

（七月）

一、廿二日午之刻ハ大風亥ノ刻ニ止、毘沙門堂後松大木倒ル、七本松後ノ松大木倒ル、其外樹木損スル也、下立売下ル出水通三間焼失、

元禄十四年

（六月）

一、廿日暁ハ大雨、六ツ半ハ五ツ半迄雷方々ニ落ル、仙洞御所へも二度、御番之同心壱兩人死スト申、二条御城内へも三ヶ所へ落ル、尤供（洪）水川筋之町之家方々ニ流入余程死、雷供水廿日之暁方ハ五ツ時迄ノ事也、高橋落ル紙屋川筋ノ橋大方落ル、七条朱雀在家二軒電

火ニ焼失、死人兩人

上記の2件について、元禄8(1695)年の場合は、大風によって火災が拡大されたと推察されるものである。次の、元禄14(1701)年では、洪水に加え落雷により火災が発生するなど、幾つかの災害が同時に発生し、その被害は甚大であったようである。このように風水害の場合、詳しい被害まで書かれている場合が多かった。

#### IV. 防火に対する取り組み

火災の記録が多かったことに対応するように、「火之用心」に関する記録は多く、33件であった。元禄8～9年にかけては、2、3ヶ月おきにお触れがたまわっていたようである。ただし、火災の発生後に、「火之用心」に関わるお触れが出たかどうかについては、触書の内容を他の史料から検証する必要がある。

さて、記録内容は、「十三日晴、公儀触別記有之、日(火)用心之事也」と、単に火の用心の触があったことを記した場合のほか、「大名が上京するので特に火の用心に注意なさい」、「葵祭があるので火に用心せよ」といった内容などがみられた。

一方で、1694(元禄7)年12月23日の一件は詳細である。

元禄七年

(十二月)

一、廿三日雨、松梅院<sub>ノ</sub>公儀触来ル、能松持参、

口上

一、火之用心可入念旨、最前相触候得共、当冬江戸<sub>ノ</sub>度々被仰下候之間、弥念入可申事、

一、何方ニ<sub>テ</sub>出火之節、早速出会隣家近辺<sub>ノ</sub>立会情出

し消可申候、火消衆被参候者、立退、役人之可請差図事、

一、町屋借屋以下迄日々無油断火之本之義可申候、前々

<sub>ノ</sub>相触候通、近キ親類縁者主従好身之外、火事場所近

所へ無用之者一切不可立出候、火事場<sub>下</sub>々々相越、理

不尽ニ罷通候者、御法度之旨申聞、一切不可通之、若

承引於無之者、奉行所<sub>江</sub>召連可来候、自今以後火事場

近所<sub>江</sub>小路徘徊いたし、往還<sub>ノ</sub>妨ニ成候者ハ、役人差

出可召搦候間、右之旨相心得無用之者不可罷出候事、

右之通洛中洛外へ可触知者也、

成十二月十八日

右之通従 御公儀被仰出候間、面々長屋下人等迄急度

御申聞せ相守候様ニ可被成候、為其如此ニ候、以上、

元禄七<sub>成</sub>十二月廿二日

年預

同日晩、同触書友世<sub>ノ</sub>来ル、其奥書伝、

右之通、従 御公儀被仰出候条、寺中社家中<sub>并</sub>末寺末

社境内門前下人等迄御申聞せ、急度相守り候様ニ可被

仰付候、為其如此ニ御座候、以上

元禄七<sub>甲戌</sub>年十二月十八日 五十嵐市郎兵衛

妙泉寺

法誉

善想寺

成誉

北野

松梅院

(<sub>禪心</sub>)  
妙藏院

玉松院

徳勝院

目代

渡瀬友世

宮仕年預

能悦

□□

北野東向

観音寺

末廿ヶ有之

此巻物箱共ニ観音寺へ遣ス也、

これによると、出火の際は火消衆の到着まで隣近所の者で消火し、役人の指図を請うこととなっている。そして、火事場への関係者以外の立ち入りを禁じ、それを侵した者は役人に差し出す旨が記されている。都市社会における火事への防災意識が伺える。

その他の記録では、「前々<sub>ノ</sub>相触候通、火之用心可致候…」や、「去年度々被仰出候通、出火之用心無油断相守候様ニ又々被仰出候条、…」といった内容がみられ、火之用心に関する触が度々出されていた。

#### V. 日記類を利用した災害史研究の可能性

以上のように、約50年間の北野天満宮の宮仕記録には、大規模な場合から身近なケースまで、様々な災害が書き残されていた。これらは、ミクロなレベルでの災害を知る上で貴重な史料と考えられる。では、これらの記録をもとに、どのような災害研究が可能であろうか。

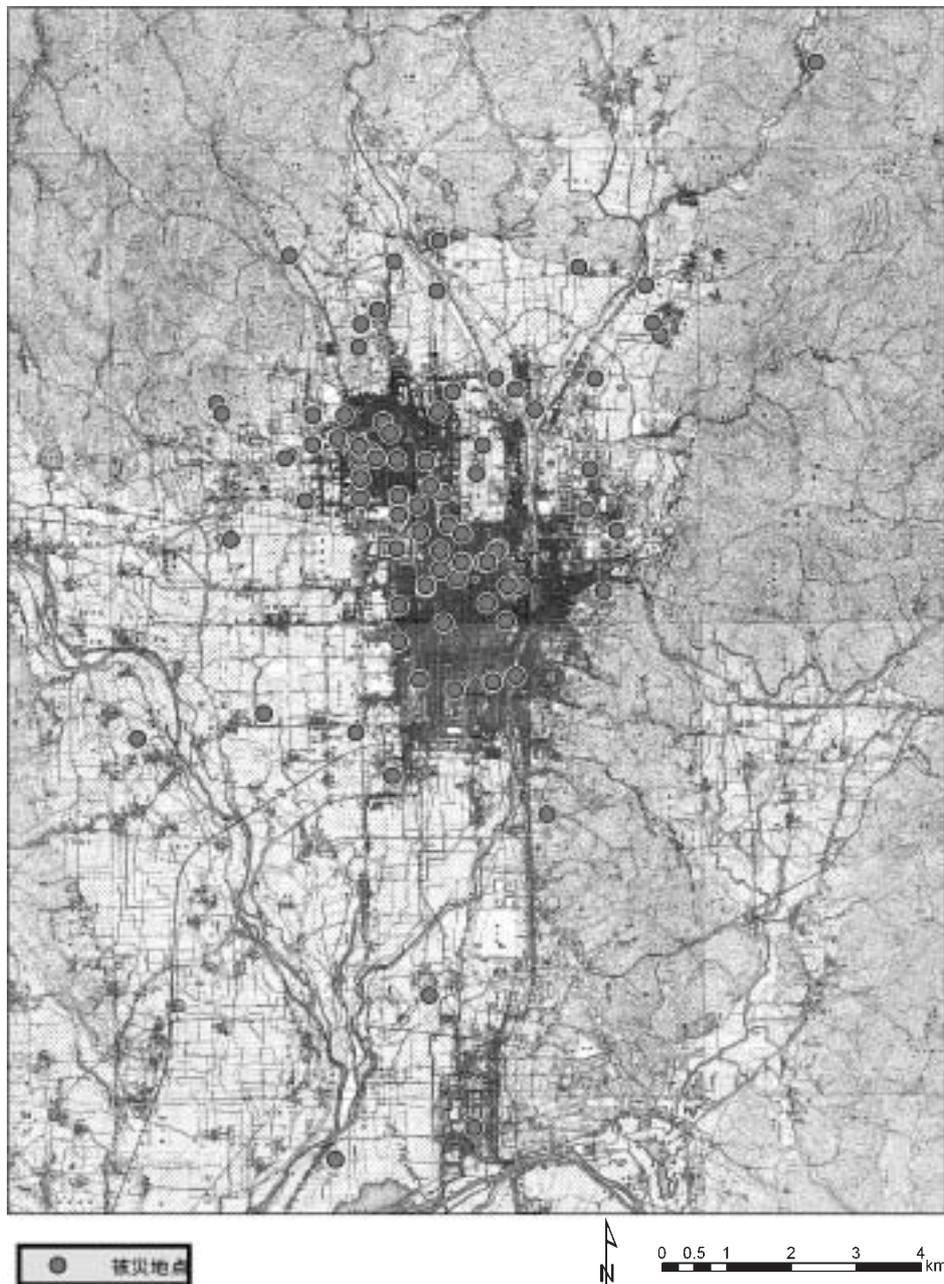
まず、江戸時代初期における北野天満宮の被災と復旧の歴史が明らかにされる。これは、近年注目されつつある文化財防災を議論する際に、過去の実例として参考となる。

次に、周辺地域の災害における被災地点の詳細な記載に注目すれば、被災地の特定とその地図化が考えられる。特に火災は、具体的な被災地を表示することができよう。具体的には第1図、第2図である。これらは、大日本帝国陸地測量部明治42年測図・明治44年―大正元年発行の地図に、火災発生地点の分布を示したものである。これらを基に、類焼範囲の検討や火災発生地点の特性、社会的条件との関係性などが指摘されると考えられる。風水害についても、被災範囲の復原が可能であろう。また、同時代の他の史料と照合させることで、被災地や災害規

模を検証できよう。これらの作業は、江戸時代初期と時代は限定されるものの、京都市域全体の災害史を知る上で有用といえる。さらに、災害データを江戸時代の気象データと照合させることで、火災が拡大した背景や、風水害が発生する場合の自然条件を検討できよう。

ただし、地震については、この日記に詳細な情報が記載されていないことから、その規模や被害の推測は難しい。

一方、災害による被害の実態だけではなく、防火に対する取り組みの記述がみられた。これらの防火対策の変



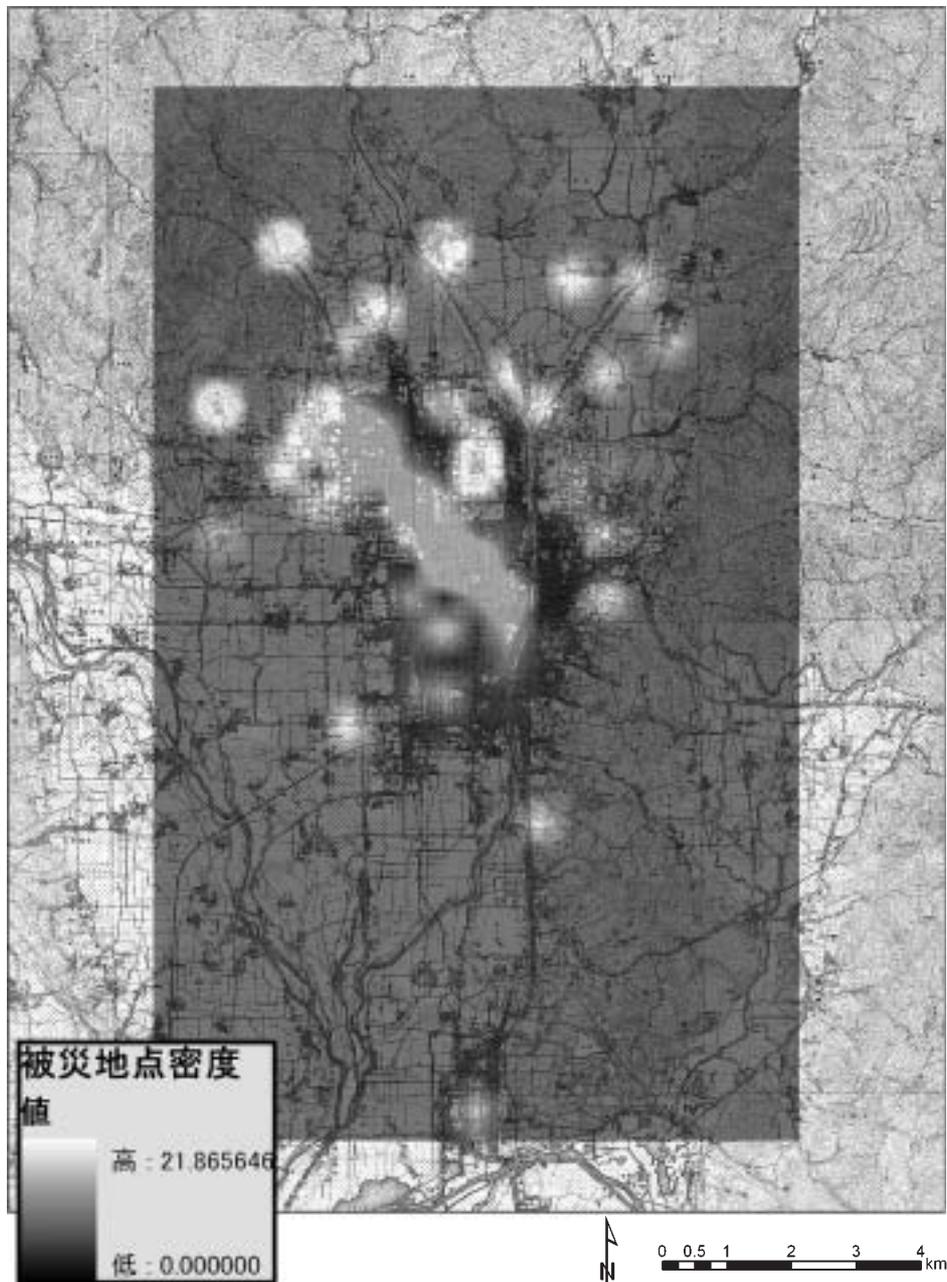
第1図 『北野天満宮史料』からみた火災による被災地点の分布

容を考察することで、地域社会の動向にアプローチできると考えられる。

以上のように、江戸時代初期の北野天満宮宮仕記録に書き残された災害情報は、ミクロなレベルから京都の災害史にアプローチできる点で有効である。そして、こういった議論は、京都を例とした都市域の発展と災害との関係として展開されるであろう。本研究における今後の課題としたい。

#### 注

- 1) 例えば、木村 礎『村の生活史 史料が語るふつうの人々』、雄山閣出版、2000、がある。
- 2) 北野天満宮史料刊行会『北野天満宮史料 宮仕記録』、北野天満宮、1981。  
北野天満宮史料刊行会『北野天満宮史料 宮仕記録 続一』、北野天満宮、1996。  
北野天満宮史料刊行会『北野天満宮史料 宮仕記録 続二』、北野天満宮、1997。  
北野天満宮史料刊行会『北野天満宮史料 宮仕記録 続三』、北野天満宮、1999。
- 3) 北野天満宮史料刊行会『北野天満宮史料 宮仕記録』、北野天満宮、1981、1頁。



第2図 『北野天満宮史料』からみた火災による被災地点の密度分布

第1表 『北野天満宮史料』における災害記録

災害	史料	掲載頁	項目	元号	年	月	日
破損	宮仕記録	36	社頭大破	正保	2		
火災	宮仕記録	56	浄満寺出火	正保	4		
火災	宮仕記録	76	内裏炎上	承応	2	6	13
火災	宮仕記録	76	本隆寺火事	承応	2	6	17
破損	宮仕記録	112	大燈籠倒壊	寛文	2	11	
修復	宮仕記録	114	倒壊の燈籠再建困難	寛文	2	11	
防火	宮仕記録	214	防火触	寛文	9	6	3
防火	宮仕記録	249～250	火用心	寛文	13	3	15
火災	宮仕記録	251	禁裏他火災	寛文	13	5	9
火災	宮仕記録	258	高橋火事	貞享	1	12	6
防火	宮仕記録	266	自身番	貞享	2	2	9
火災	宮仕記録	293	八条殿町屋火事	貞享	2	9	24
火災	宮仕記録	304	衣棚通火事	貞享	2	12	12
火災	宮仕記録	323	麩屋町火災	貞享	3	4	3
防火	宮仕記録	328	火事見廻人数に日傭を雇置く	貞享	3	4	12
雨乞	宮仕記録	345	雨乞	貞享	3	6	28
雨乞	宮仕記録	346	雨乞	貞享	3	7	2
風水害	宮仕記録	348	大風	貞享	3	7	25
地震	宮仕記録	362	地震	貞享	3	12	4
火災	宮仕記録	364	火災	貞享	3	12	11
防火	宮仕記録	369	火の用心の触	貞享	3	12	27
火災	宮仕記録	376	火災	貞享	4	1	26
火災	宮仕記録	378	火災	貞享	4	1	26
火災	宮仕記録	383	御影堂出火焼失三名焼死	貞享	4	2	10
地震	宮仕記録	383	地震	貞享	4	2	14
破損	宮仕記録	388	石燈籠倒れ子供怪我	貞享	4	3	3
修復	宮仕記録	393	石燈籠のゆがみを直す	貞享	4	3	14
防火	宮仕記録	393	自身番、火の用心	貞享	4	3	21
風水害	宮仕記録	396	石燈籠降雨により傾く恐れあり	貞享	4	4	3
防火	宮仕記録	396	借屋住六兵衛宅出火せんとし消しとめる	貞享	4	4	3
その他	宮仕記録	399	四月二十八日即位式当日の風雨の難なきことの祈祷	貞享	4	4	10
破損	宮仕記録	406	金燈籠破損	貞享	4	4	17
落雷	宮仕記録	428	西京に落雷	貞享	4	7	7
火災	宮仕記録	428	粽屋直喜出火	貞享	4	7	8
火災	宮仕記録	429	紫竹村火事	貞享	4	7	12
地震	宮仕記録	430	地震	貞享	4	8	24
風水害	宮仕記録	438	大風	貞享	4	9	7・8
破損	宮仕記録	438	樹木倒る	貞享	4	9	9
破損	宮仕記録	439	長壁倒る	貞享	4	9	11
修復	宮仕記録	439	屋根修理	貞享	4	9	12
修復	宮仕記録	440	壁修理	貞享	4	9	17
修復	宮仕記録	448	中間東屋敷垣修理	貞享	4	10	17
地震	宮仕記録	449	地震	貞享	4	10	21
防火	宮仕記録	453	火の用心	貞享	4	11	13
火災	宮仕記録	457	観世町出火	貞享	4	12	7
火災	宮仕記録	465	姉小路両替町通角出火	貞享	4	12	23
火災	宮仕記録	474	安楽小路・八条殿町の火事	貞享	5	1	27

第1表 (続き)

災害	史料	掲載頁	項目	元号	年	月	日
火災	宮仕記録	492	糺村火事	貞享	5	3	13
火災	宮仕記録	506	上京柳原火事	貞享	5	6	27
落雷	宮仕記録	519	南ノ鳥居に落雷	貞享	5	7	18
その他	宮仕記録	519～520	雷諫めの皆灯明・連歌	貞享	5	7	19
火災	宮仕記録	534	北野今小路北側火事	貞享	5	9	28
火災	宮仕記録	544	火事	元禄	1	10	16
火災	宮仕記録統一	2	火事	元禄	1	12	4
修復	宮仕記録統一	22	私灯笼一对の修理	元禄	2	1	13
防火	宮仕記録統一	44	火之用心	元禄	2	3	25
地震	宮仕記録統一	44	地震	元禄	2	3	28
火災	宮仕記録統一	45	油小路一条下ル町出火	元禄	2	4	2
火災	宮仕記録統一	46	西刻火事	元禄	2	4	10
火災	宮仕記録統一	46	寅下刻火事	元禄	2	4	10
防火	宮仕記録統一	49	火之用心の触	元禄	2	4	27
火災	宮仕記録統一	57	下京火事	元禄	2	5	19
火災	宮仕記録統一	72	柳馬場蛸薬師出火	元禄	2	7	12
破損	宮仕記録統一	112	縁日灯笼破損	元禄	2	11	16
防火	宮仕記録統一	112	火之用心	元禄	2	11	16
防火	宮仕記録統一	119	火の用心の触	元禄	2	12	22
火災	宮仕記録統一	124	火事	元禄	3	3	2
火災	宮仕記録統一	127	火事	元禄	3	4	16
火災	宮仕記録統一	140	養命坊の良方長屯という乞食小屋焼失	元禄	3	6	5
旱魃	宮仕記録統一	142	旱魃につき雨乞踊	元禄	3	6	19
風水害	宮仕記録統一	157	方々大洪水	元禄	3	8	15
その他	宮仕記録統一	158	大洪水の見舞	元禄	3	8	19
風水害	宮仕記録統一	158	道中水損	元禄	3	8	20
修復	宮仕記録統一	159	出家の借家修復	元禄	3	9	6
火災	宮仕記録統一	169	富小路八幡町下ル火事	元禄	3	11	18
火災	宮仕記録統一	174	竹林寺後小家十三軒焼失	元禄	3	12	8
火災	宮仕記録統一	174	東福寺後乞食小屋焼失	元禄	3	12	9
火災	宮仕記録統一	175	三百軒余焼失	元禄	3	12	9
火災	宮仕記録統一	178	七本松非人小屋火事	元禄	4	1	25
火災	宮仕記録統一	179	亥刻火事	元禄	4	1	28
火災	宮仕記録統一	189	小出淡路守殿江戸屋敷類火	元禄	4	2	24
修復	宮仕記録統一	194	祈願所修理	元禄	4	2	8
防火	宮仕記録統一	195	安部豊後守在京中の火の用心	元禄	4	3	8
火災	宮仕記録統一	200	聖護院森屋出火	元禄	4	4	26
破損	宮仕記録統一	213	神前屏風破損	元禄	4	6	2
風水害	宮仕記録統一	213～214	大雨により台所つぶれる	元禄	4	6	2
風水害	宮仕記録統一	217	悪天につき残銭少なし	元禄	4	6	18
火災	宮仕記録統一	244	千本通中筋上ル東側出火	元禄	4	9	27
火災	宮仕記録統一	246	卯ノ刻火事	元禄	4	10	19
火災	宮仕記録統一	247	竹田村火事	元禄	4	10	24
火災	宮仕記録統一	249	三条西辺火事	元禄	4	11	15
火災	宮仕記録統一	257	岡崎火事	元禄	4	12	13
火災	宮仕記録統一	260	一乗寺門前藪里村火事	元禄	5	1	4
火災	宮仕記録統一	270	千本下立売二町上ル火事	元禄	5	4	30

第1表 (続き)

災害	史料	掲載頁	項目	元号	年	月	日
火災	宮仕記録統一	273	六条魚屋町火事	元禄	5	5	12
火災	宮仕記録統一	280	一乗寺村火事	元禄	5	7	4
破損	宮仕記録統一	282	学童屋根破損	元禄	5	8	8
火災	宮仕記録統一	292	火事	元禄	5	9	2
防火	宮仕記録統一	295	火之用心触	元禄	5	10	17
火災	宮仕記録統一	303	青蓮院宮里坊火事	元禄	5	12	1
火災	宮仕記録統一	306	浄福寺通一条火事	元禄	5	12	13
火災	宮仕記録統一	306	千本一条火事	元禄	5	12	14
風水害	宮仕記録統一	310	終日烈風	元禄	6	1	27
火災	宮仕記録統一	310	六条辺火事	元禄	6	2	3
火災	宮仕記録統一	310	新町四条下ル火事	元禄	6	2	4
防火	宮仕記録統一	311	火之用心触	元禄	6	2	7
防火	宮仕記録統一	320	開帳につき火の用心触	元禄	6	3	7
火災	宮仕記録統一	326	火事	元禄	6	4	17
防火	宮仕記録統一	329 ~ 330	日光門跡上京のため火の用心触	元禄	6	5	8
防火	宮仕記録統一	331	寺社方火の用心触	元禄	6	5	23
地震	宮仕記録統一	339	地震	元禄	6	6	16
破損	宮仕記録統一	340	持庵大破	元禄	6	6	21
修復	宮仕記録統一	350	学童屋根修理	元禄	6	7	29
火災	宮仕記録統一	382	龍安寺火事	元禄	6	12	20
火災	宮仕記録統一	382	本国寺前火事	元禄	6	12	25
火災	宮仕記録統一	383	本誓寺通千本西入町火事	元禄	6	12	27
火災	宮仕記録統一	383	寅刻火事	元禄	6	12	27
火災	宮仕記録統一	386	亥刻出火	元禄	7	1	7
地震	宮仕記録統一	390	地震	元禄	7	2	9
火災	宮仕記録統一	391	西賀茂・桂両所火事	元禄	7	2	20
地震	宮仕記録統一	393	地震	元禄	7	3	26
火災	宮仕記録統一	411	吉田火事	元禄	7	4	6
火災	宮仕記録統一	413	伏見町火事	元禄	7	4	24
火災	宮仕記録統一	426	浄福寺火事	元禄	7	6	20
火災	宮仕記録統一	434	大徳寺裏門前出火	元禄	7	8	10
破損	宮仕記録統一	444	夏堂の戸枢はづれる	元禄	7	9	16
地震	宮仕記録統一	454	地震	元禄	7	11	11
防火	宮仕記録統一	4	火の用心公儀触	元禄	7	12	9
火災	宮仕記録統一	6	下長者町小川角にて火事	元禄	7	12	16
火災	宮仕記録統一	6	釜座二条下る東側火事	元禄	7	12	17
防火	宮仕記録統一	9 ~ 11	火の用心公儀触	元禄	7	12	23
火災	宮仕記録統一	12	七間茶屋松葉屋より出火	元禄	7	12	26
火災	宮仕記録統一	26	盗火付	元禄	8	2	5
防火	宮仕記録統一	43	葵祭につき火の用心の公儀触	元禄	8	4	13
防火	宮仕記録統一	58	火の用心触	元禄	8	7	12
風水害	宮仕記録統一	60	大風で毘沙門堂後の松大木など倒る	元禄	8	7	22
火災	宮仕記録統一	60	下立売下る出水通出火	元禄	8	7	22
防火	宮仕記録統一	70	火の用心につき公儀触	元禄	8	9	26
修復	宮仕記録統一	73	柳町中間屋敷壁修復	元禄	8	10	9
防火	宮仕記録統一	77	火の用心公儀触	元禄	8	11	12
修復	宮仕記録統一	77	学堂とい障子修復	元禄	8	11	21

第1表 (続き)

災害	史料	掲載頁	項目	元号	年	月	日
破損	宮仕記録続二	78～79	神前鱈口灯炉細引破損	元禄	8	11	22
火災	宮仕記録続二	80	一乗寺村惣堂火事	元禄	8	12	24
防火	宮仕記録続二	83	火之用心の公儀触	元禄	8	12	11
破損	宮仕記録続二	84	神前破損等一覧	元禄	8	12	15
破損	宮仕記録続二	85	御殿屋根漏る	元禄	8	12	15
火災	宮仕記録続二	90	江戸小引町より出火	元禄	9	1	4
破損	宮仕記録続二	90	八嶋の小銚子破損	元禄	9	1	7
防火	宮仕記録続二	90	火之用心	元禄	9	1	7
火災	宮仕記録続二	90	木屋町出火	元禄	9	1	8
火災	宮仕記録続二	107	糺之町四町焼け	元禄	9	4	8
火災	宮仕記録続二	115	松原村庄屋出火	元禄	9	6	8
火災	宮仕記録続二	115	火事につき公儀触	元禄	9	6	11
破損	宮仕記録続二	116	学童奥屋根破損	元禄	9	6	15
防火	宮仕記録続二	127	公儀触、火用心	元禄	9	7	13
破損	宮仕記録続二	129～130	学童雪隠屋根破損	元禄	9	8	13
地震	宮仕記録続二	132	地震	元禄	9	8	24
防火	宮仕記録続二	134	公儀触、火用心	元禄	9	9	24
防火	宮仕記録続二	134	公儀触、火用心	元禄	9	9	25
防火	宮仕記録続二	138	公儀触、火用心	元禄	9	10	30
防火	宮仕記録続二	140	火用心、自身番、鳴物停止	元禄	9	11	12
防火	宮仕記録続二	144	公儀触、火用心	元禄	9	11	25
火災	宮仕記録続二	157	西岡こほり村火事	元禄	9	12	17
火災	宮仕記録続二	158	龍安寺門前出火	元禄	9	12	22
火災	宮仕記録続二	160	糺村出火	元禄	10	1	25
火災	宮仕記録続二	161	火事	元禄	10	2	3
火災	宮仕記録続二	164	東門番屋失火	元禄	10	2	15
防火	宮仕記録続二	165	入内ニ付火用心触	元禄	10	2	24
火災	宮仕記録続二	166	押小路柳之馬場出火	元禄	10	2	29
火災	宮仕記録続二	168	西岡辺出火	元禄	10	2	14
火災	宮仕記録続二	172	出水大宮出火	元禄	10	2	28
火災	宮仕記録続二	174	五条橋より東出火	元禄	10	3	2
火災	宮仕記録続二	174	柳町大工隣火事	元禄	10	3	5
火災	宮仕記録続二	176	川勝寺村焼失	元禄	10	4	3
火災	宮仕記録続二	177	北山出在家出火	元禄	10	4	13
地震	宮仕記録続二	181	地震	元禄	10	6	11
火災	宮仕記録続二	190	烏丸竹屋町出火	元禄	10	9	5
火災	宮仕記録続二	193	出火	元禄	10	10	9
火災	宮仕記録続二	194	鞍馬口出火	元禄	10	10	25
火災	宮仕記録続二	201	大宮通御城上八町火事	元禄	10	12	2
地震	宮仕記録続二	213	地震	元禄	11	1	4
火災	宮仕記録続二	215	松ヶ崎出火	元禄	11	1	29
火災	宮仕記録続二	236	糺の森辺火事	元禄	11	6	23
火災	宮仕記録続二	250	誓願寺にて火事	元禄	11	8	29
火災	宮仕記録続二	251	烏丸押小路上ル辺火事	元禄	11	9	10
火災	宮仕記録続二	270	大仏今町辺火事	元禄	11	12	10
火災	宮仕記録続二	271	修学寺辺火事	元禄	11	12	19
火災	宮仕記録続二	272	横大路辺火事	元禄	11	12	25

第1表 (続き)

災害	史料	掲載頁	項目	元号	年	月	日
火災	宮仕記録続二	272	鷹峰村火事	元禄	11	12	27
火災	宮仕記録続二	277	三条河原町辺火事	元禄	12	2	1
火災	宮仕記録続二	277	三条寺町辺火事	元禄	12	2	2
火災	宮仕記録続二	277	三条油小路辺火事	元禄	12	2	3
火災	宮仕記録続二	278	大將軍町火事	元禄	12	2	4
火災	宮仕記録続二	278	朱雀辺火事	元禄	12	2	6
火災	宮仕記録続二	289	大津追分火事	元禄	12	4	3
火災	宮仕記録続二	298	細こ村火事	元禄	12	5	14
火災	宮仕記録続二	313	今宮の涯出在家火事	元禄	12	6	18
火災	宮仕記録続二	317	大宮の森辺火事	元禄	12	6	27
火災	宮仕記録続二	325	下賀茂辺火事	元禄	12	7	28
風水害	宮仕記録続二	330	大風雨のため社中の古木倒れる	元禄	12	8	15
火災	宮仕記録続二	339	鷹ヶ峰辺火事	元禄	12	9	10
地震	宮仕記録続二	340	地震	元禄	12	9	12
火災	宮仕記録続二	347	猪熊二階町辺火事	元禄	12	10	29
火災	宮仕記録続二	356	田中村火事	元禄	12	12	8
火災	宮仕記録続二	356	山涯の村火事	元禄	12	12	12
火災	宮仕記録続二	357	千本一条辺火事	元禄	12	12	14
火災	宮仕記録続二	365	一条通浄福寺町火事	元禄	13	2	29
火災	宮仕記録続二	366	西の方火事、火消衆	元禄	13	3	14
雨乞	宮仕記録続二	374	雨乞	元禄	13	6	24
落雷	宮仕記録続二	375	今小路の旅籠に雷落つ	元禄	13	7	6
火災	宮仕記録続二	376	東寺辺火事	元禄	13	7	14
火災	宮仕記録続二	388	大將軍村火事	元禄	13	11	3
火災	宮仕記録続二	408	北野社土手外火事	元禄	13	12	24
火災	宮仕記録続二	408	三条辺火事	元禄	13	12	24
火災	宮仕記録続二	408	上賀茂辺火事	元禄	13	12	26
火災	宮仕記録続二	408	本誓願寺通荒神東町火事	元禄	13	12	26
風水害	宮仕記録続二	412	大雪八寸程	元禄	14	1	24
火災	宮仕記録続二	412	今出川通畑山ノ囃子火事	元禄	14	1	26
火災	宮仕記録続二	425	釜座御池下ル辺火事	元禄	14	5	6
地震	宮仕記録続二	428	地震	元禄	14	5	21
火災	宮仕記録続二	429	紙屋川町北側北野堺目火事	元禄	14	6	10
雨乞	宮仕記録続二	430	雨乞	元禄	14	6	17
風水害	宮仕記録続二	431	落雷大暴れ、洪水による死人、紙屋川筋の橋落ちる	元禄	14	6	20
火災	宮仕記録続二	432	雷火により一軒焼失	元禄	14	6	29
火災	宮仕記録続二	439	今小路辺火事	元禄	14	10	22
火災	宮仕記録続三	5	今小路辺火事	元禄	15	1	20
火災	宮仕記録続三	9	笹屋町千本東辺火事	元禄	15	2	13
火災	宮仕記録続三	16	鷹峰辺火事	元禄	15	4	25
火災	宮仕記録続三	16	上長者町千本辺火事	元禄	15	4	26
火災	宮仕記録続三	57	八瀬辺火事	元禄	15	12	6
火災	宮仕記録続三	65	蛸薬師大宮辺火事、魚棚大宮辺火事	元禄	15	12	24
火災	宮仕記録続三	75	伏見六地藏辺火事	元禄	16	2	8
火災	宮仕記録続三	98	付火あり	元禄	16	4	5
火災	宮仕記録続三	102	亀山方角火事	元禄	16	4	16
火災	宮仕記録続三	107	一乗寺西北火事	元禄	16	5	5

第1表 (続き)

災害	史料	掲載頁	項目	元号	年	月	日
火災	宮仕記録続三	126	安井村火事	元禄	16	9	8
火災	宮仕記録続三	126	東六条辺火事	元禄	16	9	9
火災	宮仕記録続三	134	木下町火事	元禄	16	10	13
火災	宮仕記録続三	134	紙屋川町火事	元禄	16	10	13
火災	宮仕記録続三	137	近辺火事、火消衆	元禄	16	10	27
火災	宮仕記録続三	147	松ヶ崎火事	元禄	16	12	2
火災	宮仕記録続三	180	火事にて東川原非人の家を焼く	元禄	16	12	12
火災	宮仕記録続三	182	火事	元禄	16	12	18
火災	宮仕記録続三	183	上賀茂辺火事	元禄	16	12	21
火災	宮仕記録続三	197	火事	元禄	17	1	7
火災	宮仕記録続三	203	大徳寺門前火事	元禄	17	3	5
火災	宮仕記録続三	236	北野馬喰町火事	元永	1	8	23

\* 表中に、身分差別、身心障害にかかわる表現が見られるが、原文の歴史性を考慮して、そのままとした。